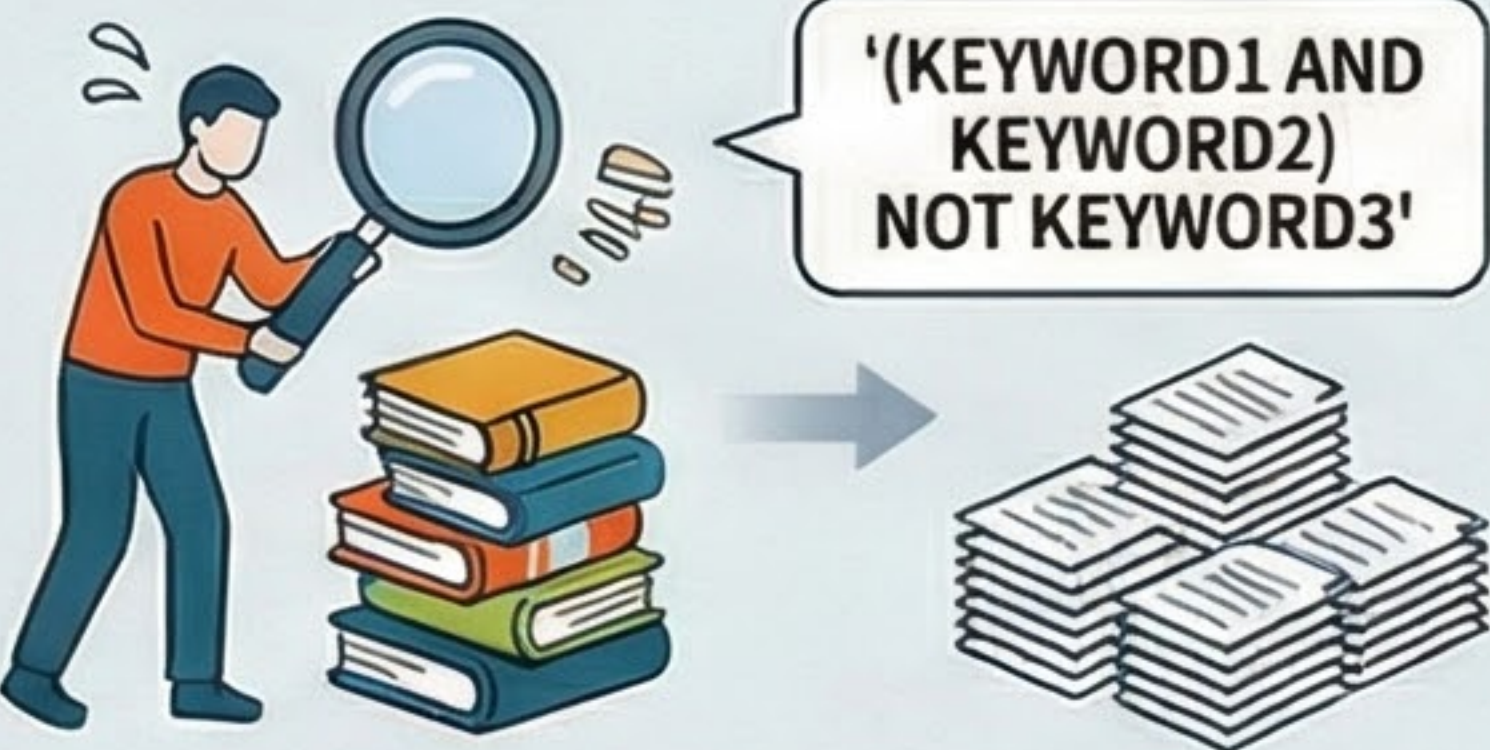


AIエージェントによる特許調査の革新：検索式不要の時代へ

知財調査のパラダイムシフト（従来 vs 次世代）

構文 (Syntax) から
意味 (Semantics) への移行



従来の調査員による複雑な検索式の構築

比較項目	従来のブール検索	AIエージェント検索
検索基盤	キーワードの論理的整合	重み・文脈のベクトル近似
ユーザー入力	厳密な構文 (AND/OR/NOT)	自然言語 (輪規メモ、回面など)
処理単位	文言・単語	技術要素・構成要件・課題・効果
出力結果	母集団の提示のみ	文献抽出、比較器、分析、評価
拡張性	繋辞語辞書の構築が必須	AIが自動的に概念を拡張

「検索式不要」を実現する
3層の技術構造

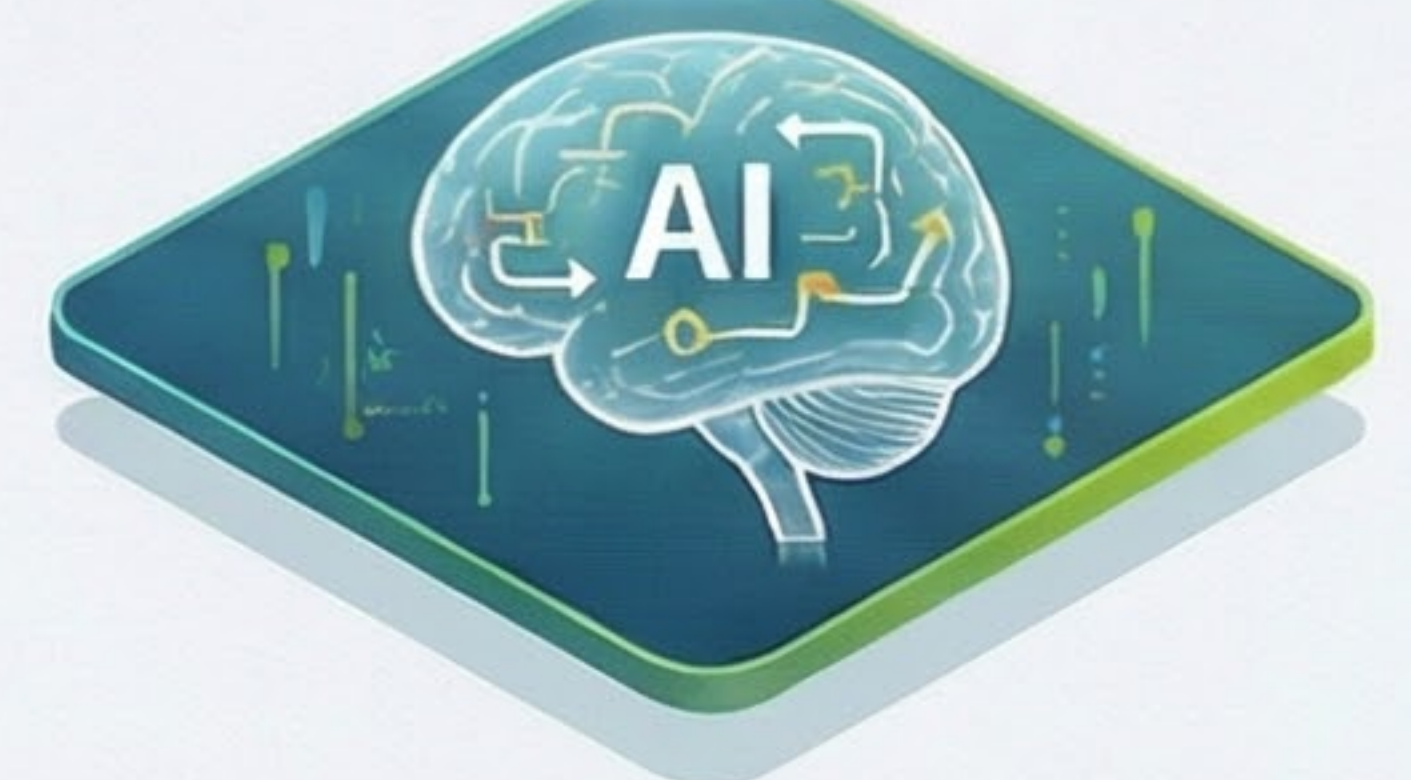
セマンティック検索 (ベクトル埋め込み)



特許特化型LLM



ディープエージェント
(思考プロセスの可視化)



主要プラットフォームの信頼性と実績



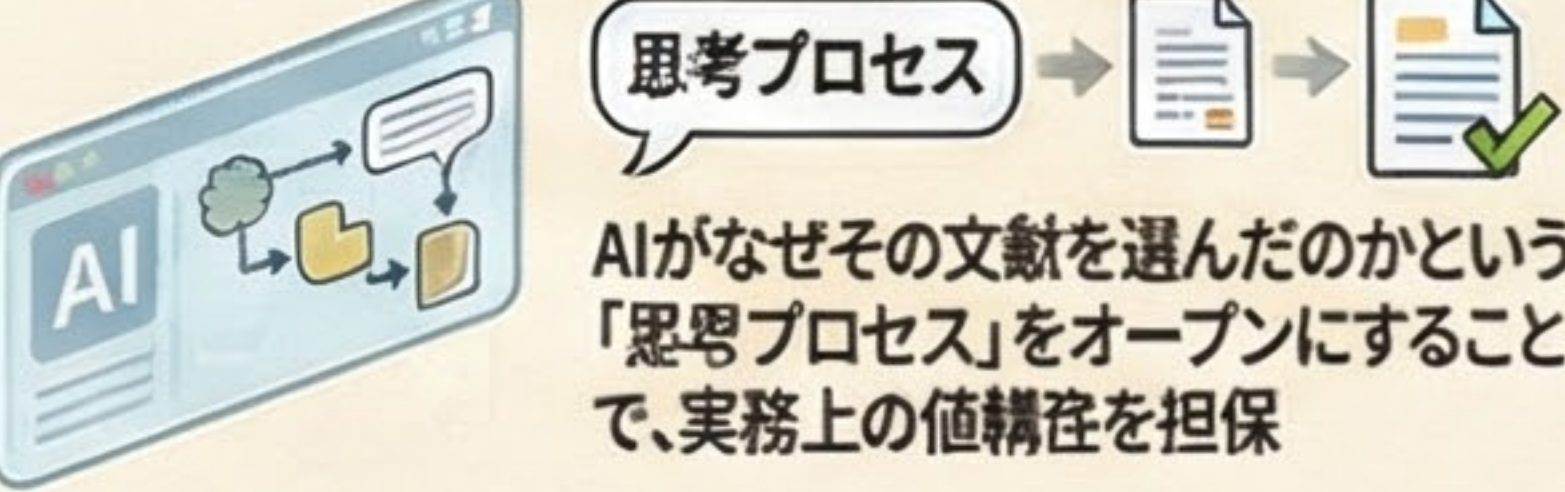
Patsnap Eureka : X文献
のヒット率76%

新得性を否定する重要文献 (X文数)
の接点において、特許特化型AIは
高いスクリーニング能力を証明

人間×AIのハイブリッドで正解率75%へ



思考の可視化による「説明責任」の解消



導入による経済的インパクトと実務の変容



調査時間を50%~80%削減

AIが事前に調査度スコアを付与し、要約を提示
することで、スクリーニング工程が効率的に活躍

R&D部門への
「知財の民主化」

専門スキルがなくても
技術者自身が顕微鏡初期に
先行技術を確認できるため、
手戻りリスクを低減



専門家の役割は
「検証」と「戦略」へ

サーチャーの仕事は「検索式
作り」から、AIの出力を多角的
に検証し、検査判断に役立てる
高度な戦略策定へシフト



リスク管理と将来展望

ハルシネーション (幻覚) への3つの防壁



万全のセキュリティとガバナンス

